

学校園教育推進サポート事業 報告書

学 番	1301	学校名	浜浦小学校	校長名	鈴木 一弥	作成者名	樋口 大輔
学校教育推進サポート担当者名		樋口 大輔				電 話	025-266-3181

1 実践のテーマ

自ら問いをもち、学びを深める子どもの育成～問いの解決に向けて学び方を選び取る子どもの姿を目指して～

2 テーマ設定の理由

新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～において期待される「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向け、上述した子どもの姿を目指し、授業改善の方法を明らかにすべく主題を設定した。当校が取り組んできた「入口の問い」「学びを深める問い」がある授業の中で、「学びを委ねる」場と内容を組織することにより、子どもが見方・考え方を働かせながら学びを深める授業を目指した。

3 実践内容

(1)実践内容

今年度は、次の内容に焦点化して授業づくりを進め、上述したような子どもの姿を引き出すための手立てを明らかにすることを研究の対象とした。

◎「問い」の解決に向けて、子どもが教科特有のものの見方・考え方を働かせながら学びを深める

(2)子どもに「学びを委ねる」授業づくりについて

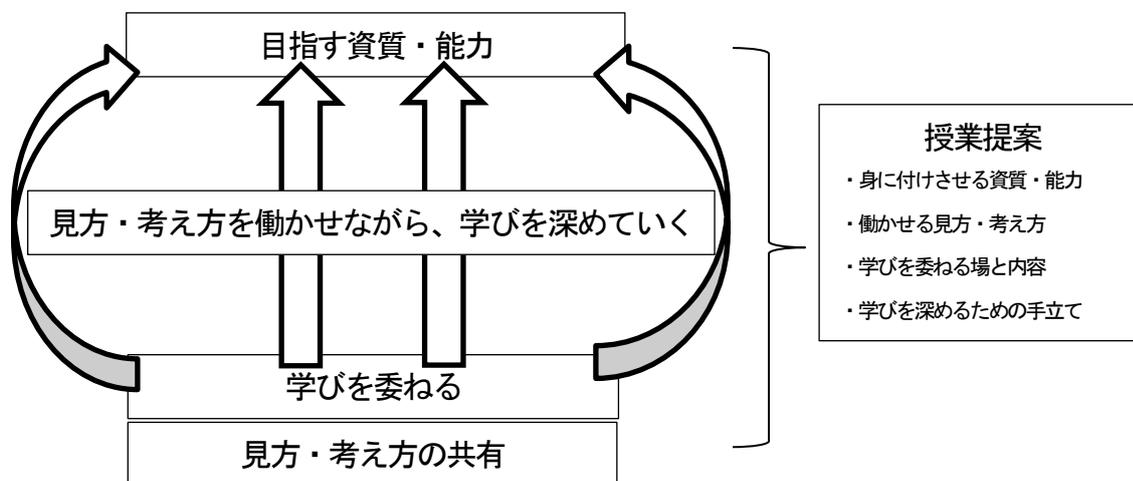
下図のような段階を設けた授業構成により、目指す資質・能力の育成を目指した。

①子どもが見方・考え方を共有する場

「学びを委ねる」前段階である。例題等をもとに、教師が子どもに見方・考え方を共有させる場である。ここで共有された見方・考え方が、子どもにとっての学びの道具（考える武器）になる。

②「学びを委ねる」場と内容の組織

「学びを委ねる」段階である。見方・考え方が共有されたら、子どもに学びを委ねる。子どもが見方・考え方を働かせながら試行錯誤し、学びを深めていくことができる場を作る。



(3)子どもに「学びを委ねる」授業づくりの実際

【国語科】 単元名『宇宙のプロフェッショナルからの手紙で自分の未来を見つめよう』

学びを深めた子どもの姿を「それぞれの筆者の思いや願いを把握し、理解したことや自分の将来に活かしたいことを交流する中で、自分の考えをまとめることができる姿。」と設定して実践した単元である。

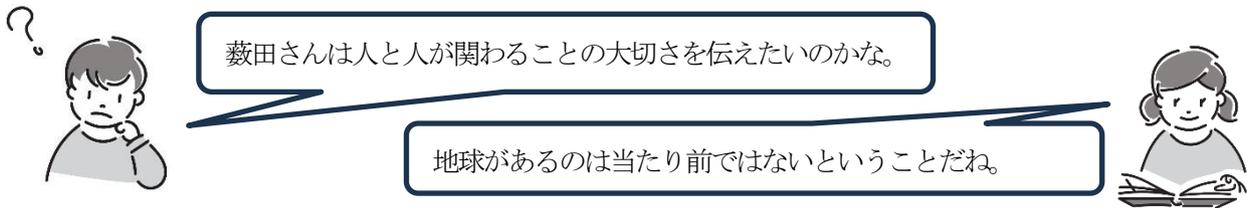
本時は「筆者の思いや願いと自分の将来とを結び付けて捉え、将来について考えを持つことを通して、自分にとって大切な言葉・考え方を探すためには、言葉の意味を捉えなおしたり、複数の意見の類似点・相違点を明確にしたりすること大切だと自覚することができる」ことをねらいとして、学びを委ねる場と内容を次のように設定した。

場	筆者の思いや願いと自分の将来とを結び付けて捉える場。	内容	3人の筆者の思いや願いの中で、自分の将来に活かしたい言葉、大切にしたい言葉は何か。
----------	----------------------------	-----------	-------------------------------------------

前時では3人の筆者が述べていることの概要を確認し、3人のうち2人の筆者の主張が似ていることを共有した。本時では、子どもが自ら深めることができるように教師は子どもの問い「2人の筆者の意見の違いは何か」を引き出した上で、次のような子どもの疑問を取り上げて全体に広げ、読みを深めるためのポイントとなる言葉の意味を共有した。

① 藪田さんはどのような意味合いで「尊い」という言葉を用いたのか。

「尊い」の意味を考えながら、子どもたちは本文を再読した。すると、以下のように考える児童がいた。



ポイントを押さえたことで、言葉の意味に立ち返った子どもたちは、自分の将来と結びつけ始めた。そのような状況で、教師は次のように働き掛け、どのような言葉を自分と結びつけるのかを委ねた。

② 言葉の意味を改めて考え、リストに追加したくなったものをノートに書き足そう。

すると、子どもは本時において全員で考えたこと、取り組んだことをもとにして、3人の筆者の主張を自力で深く読むために大切なポイントを押さえながら、自分の考えを表現することができた。



<国語科の成果 (○) と課題 (▲)>

- 総合の学習と関連付け、将来の自分を思い描きながら活動に取り組むことで、一人一人が自分事として考え、その子どもにしかできない活動することができた。
- 学級全体で言葉の意味、働きを確認することで、その後の活動でもそれらに着目して再読する姿があった。
- ▲ 宇宙や地球の未来について書かれている教材から、自分の将来について考えることは少し離れていて自分事として捉えるのが難しい児童もいた。
- ▲ 教師主導の時間が多く、再読の際に深く教材を読む意識が希薄になった子どももいた。入口の問いを子どもに委ね、試行錯誤したいことを子どもが自ら選ぶ手立てが必要だった。

【算数科】「割合」～どうやって比べるのかな～

本時では、「比較量も基準量も異なる複数の割合の比べ方について、割合を分数で表す場合と、小数で表す場合を比較することで、小数で割合を表すことのよさとその理由を説明することができる」ことをねらいとして、学びを委ねる場と内容を以下のように設定した。

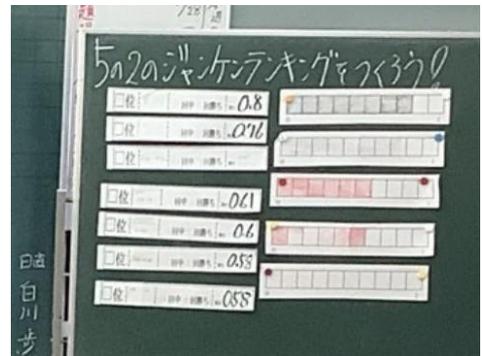
場	比較量も基準量も異なる複数の割合について比較・検討する場	内容	見た人が分かりやすい結果を作っていくときの、比較と検討を委ねる
----------	------------------------------	-----------	---------------------------------

本時に至るまでに、子どもは、比較量と基準量が異なる事象を比較するときは分数や小数で割合を表現する学習をしてきた。そして割合の求め方や意味を理解してきた。本時では、割合を小数で表すことのよさについて、子どもたちが気付くための授業を構成した。そこで、以下の手立てを行った。

- ① 児童が活動で記録したじゃんけんの結果（○回中△回勝ち）を、記録シートに記入させる。比較量と基準量に着目させ、順位の入替えをしながら比較・検討をさせる。

じゃんけんの強さランキングを作るための比較・検討を児童に委ねることによって、分数（通分）では、多人数を比べることは非効率であるという自発的な気づきを促すことができた。

1位	Bさん	9回中7回勝ち	割合0. 7 7
2位	Cさん	1 3回中9回勝ち	割合0. 6 9
3位	Aさん	1 2回中8回勝ち	割合0. 6 6



それだけでは、比較の方法のみに焦点が当たってしまうと考えられたので、次の手立ても組み込んだ。

- ② 割合を図で表すことで、基準量1を可視化させる。

個人のデータを図に表し、基準量（じゃんけんの回数）が異なる場合でも、図の全体を同じ長さとして扱う提示を行った。

この手立てにより、児童から以下の本質的な発言が引き出されたと考える。

- 「上限を1と見ることができるから、パッと見て比較しやすい」（基準の統一の理解）
- 「分数は、もとにする量がいっつも違うことがわかった」（相対的な不便さの認識）
- 「図で見れば、回数が違っても強さが比べられる」（割合の概念の視覚的納得）

本実践を通じ、「割合とは、異なる基準量を『1』にそろえることで比較がしやすくなる便利な考え方である」ということの意味につなげたと考える。

<算数科の成果（○）と課題（▲）>

- じゃんけんという生きたデータを用いたことで、「正しく比べたい」という数へのこだわりが生まれ、主体的な学びが展開された。
- 分数（通分）という既習事項をあえて使わせることで、その方法の限界を知り、割合を小数で表す必要性に納得感を持たせることができた。
- ▲ グループでの合意形成を優先させたため、分数でランキングを作成したかった児童の思考を十分に拾い上げられなかった可能性がある。個々がより深く葛藤できる時間の確保が求められる。
- ▲ 問題解決を委ねるだけでなく、「方法の良さを説明し切る」という数学的なミッションをより明確に設定することで、議論をさらに深めることができたと考えられる。

4 実践計画

実施時期	実施内容
7月	講演会 浜浦小学校職員を対象に、講師（福島大学 教授 佐藤佐敏様）を招いての講演会を実施
9月	授業づくり研修会Ⅰ 講師（福島大学 教授 佐藤佐敏様）を招いて国語科の公開授業・協議会を実施
11月	授業づくり研修会Ⅱ 校外からの参会者を募り、国語科・算数科の公開授業・協議会と、講師（福島大学 教授 佐藤佐敏様）を招いての講演会を実施

5 成果

【研究全体について】

- 「入口の問い」「学びを深める問い」に加えて、「視点の共有→学びを委ねる」の段階を取り入れた授業構成により、子どもが自ら問いをもちながら、目指す資質・能力に迫ることができたのかを検証・協議することができた（参会者アンケートより）。
- 「新潟市生活・学習意識調査」において、「授業では、ペアやグループで話し合う活動が好きだ」項目における肯定的な回答が前年度に比べて5ポイント近く上昇した（86.7% → 91%）。

今年度得た知見をもとに、来年度は子どもが見方・考え方を働かせながら学びを深めているかを見取るポイントを明らかにすることで、さらに研究を深めていきたい。

<記入及び提出の留意事項>

- A4判縦（横書き、原則11ポイント）で両面2枚以内で作成する。
報告書は、「1 実践のテーマ」「2 テーマ設定の理由」「3 実践内容」「4 実践計画」「5 成果」を記載する。
- 成果は写真を入れるなどして、活動内容がわかりやすくなるよう工夫すること。